

# 新山協ニュース

新潟県山岳協会ホームページ <http://www.echigo.ne.jp/~nma/>

会長 遠藤家之進正和  
新潟県山岳協会  
新潟市南区鷺ノ木新田1049  
TEL 025-362-5004

事務局 諏訪恵一  
長岡市高畑町610-10  
TEL 0258-35-4373

編集 新山協ニュース編集  
委員会代表 浅野亘寛  
TEL 0258-52-3998

平成22年度 日本山岳協会 全国自然

保護委員総会 新潟大会報告『2』

新潟県山岳協会自然保護委員会

副委員長 伊藤直 (工友会)



五百川 裕氏の講演

▼16...10 基調講演開始  
講師 五百川 裕氏

上越教育大学 准教授  
専門 植物分類系統学

講演テーマ「里山に息づく生物多様性に学ぼう、水生植物保全から考える棚田の重要性」

要旨 (報告者の理解できた範囲です。必ずしも講師のお話を忠実に復元していません。ホームページの他にも参考にしてください)

した。)

□ 生物多様性とは、多様な生物が互いに繋がって生きていくこと。繋がりが方(食物連鎖、競争、共存など)に重要な意味があり、次のような面を含む。

- ・ 生態系 (森林、河川、珊瑚礁、湖、里山等様々な環境) の多様性
- ・ 種の多様性 (大きくは植物、動物、菌類 細かくは例えば植物や動物に様々な種があること)
- ・ 個体間の多様性 (種の中の違い・遺伝子レベル)

□ 生物多様性が何故大事か  
生物多様性によって人間は様々な利益を受けている (生態系サービスと人間福利)

- ・ 基盤的環境の形成・維持 (水、空気、栄養の循環、土壌など)
- ・ 自然環境の激変、災害、汚染の緩和



熱心な参加者

原因である。  
講演は続いて里地・里山の話に入っていた。

現代では、里地・里山は手入れ不足の為、自然としての質が低下している。

1900年代半ば以前の里山は人々の生活と密着し、食料、燃料、肥料、飼料、建築材の供給の場となっていて、よく手入れされ、自然としても豊かであった。

1950年半ば以降から、家庭での石油利用、外材輸入などによりその利用価値が低下した。一方で身近な自然として注目されるようになってきた。ナラ、カシが伐採されなくなり老木化すると、病気になるりやすく虫にも付かれやすくなる。現在のナラ枯れはそのような現象の一つと考えられる。

里山を柴刈りなど行いながら管理すると生育する植物種類数が増えてくるのが分かった。10年位でもそのような結果が得られる。棚田は多くの絶滅危惧種を含む湿性植物の生育地として重要である。このように身近な里山や棚田を管理・維持していくことは、生活の中で生物多様性を保全

するということにもなるので行っていくて欲しい。また、五百川先生のネパール、ムスタン地域での植物調査時の珍しい植物写真の紹介があった。

▼21・00 過ぎ交流会終了。小部屋での二次会に参加の人、就寝の人、入浴の人それぞれであった。

▼7・00 より朝食。  
▼7・50 萬歳楽支関前で記念写真の予定だったが、雨が降り始めたため、全員昨日の自然王国プレイホールに移動し撮影した。

▼17・35 講演会終了。  
じよんのび温泉のゆつたりとした浴槽で入浴を楽しみ19・00より、交流会開始。122名参加、大広間での懇親会であった。

▼7・00 より朝食。  
▼7・50 萬歳楽支関前で記念写真の予定だったが、雨が降り始めたため、全員昨日の自然王国プレイホールに移動し撮影した。

▼11・25 登山口到着。  
▼11・40 マイクロバスに乗り、じよんのび村に戻る。途中、車庫シャッター（と思う）に描かれた「狐の夜祭り」のペイント画を見せてもらった。

日山協坂口名誉会長、長谷川自然保護委員長、県山協片桐副委員長のあいさつがあり、橋本県山協前会長の乾杯音頭で交流会が始まった。各県からの参加の方々と県内の山岳会、会員の方々と交流は大いに進み、意義深いものになったことと思う。

▼12・45 来年鳥取での再会を期し、解散式を行った。今回の自然保護委員全国総会は、COP10（国連生物多様性条約第10回締約国会議）の直前に開催されたこともあり、生物多様性を保つことの意味を参加者に深く考えさせる契機になったことと思う。

▼12・45 来年鳥取での再会を期し、解散式を行った。今回の自然保護委員全国総会は、COP10（国連生物多様性条約第10回締約国会議）の直前に開催されたこともあり、生物多様性を保つことの意味を参加者に深く考えさせる契機になったことと思う。

今大会を受け入れてくれた会場側からのあいさつで、旧高柳地区では、年々人口が減り続き、最高時1万人を越えた人口が現在は2千人を割り、地域を守り維持することが難しくなってきたというお話があり、外見は穏やかな里山の風情の中の厳しい実情を認識させられ、地域の方々の地域を守っていくこうとするご努力にエールを送りたいと思った。

▼8・45 雨具を着け、高柳登山口より出発した（参加人員は全国からの参加者を含め、54名）。  
七澤さん、武田さん、高橋さんの案内にて途中「イタヤカエデ」の群生地、ブナ林などを観察し、また、鶴川神社や二十三観音の石仏をお参りし、10・10 頂上到着。あいにくの雨で眺望は全く得られなかったが、

▼12・45 来年鳥取での再会を期し、解散式を行った。今回の自然保護委員全国総会は、COP10（国連生物多様性条約第10回締約国会議）の直前に開催されたこともあり、生物多様性を保つことの意味を参加者に深く考えさせる契機になったことと思う。

途中美しい梨の木棚田を見ながら磯之辺コース登山口に到着した。

▼8・45 雨具を着け、高柳登山口より出発した（参加人員は全国からの参加者を含め、54名）。  
七澤さん、武田さん、高橋さんの案内にて途中「イタヤカエデ」の群生地、ブナ林などを観察し、また、鶴川神社や二十三観音の石仏をお参りし、10・10 頂上到着。あいにくの雨で眺望は全く得られなかったが、

▼12・45 来年鳥取での再会を期し、解散式を行った。今回の自然保護委員全国総会は、COP10（国連生物多様性条約第10回締約国会議）の直前に開催されたこともあり、生物多様性を保つことの意味を参加者に深く考えさせる契機になったことと思う。

最後に、今大会が、本間委員長をはじめ県山協の皆様方のご尽力と協働で、無事かつ成功裏に終了したことを喜びたいと思います。

▼12・45 来年鳥取での再会を期し、解散式を行った。今回の自然保護委員全国総会は、COP10（国連生物多様性条約第10回締約国会議）の直前に開催されたこともあり、生物多様性を保つことの意味を参加者に深く考えさせる契機になったことと思う。

最後に、今大会が、本間委員長をはじめ県山協の皆様方のご尽力と協働で、無事かつ成功裏に終了したことを喜びたいと思います。

今秋 晴れの受賞

旭日中授賞（勲三等）に輝く

馬場 潤一郎さん 新潟県山岳協会顧問



講話中の馬場さん

公共、社会の様々な分野の 県体育協会会長・新潟県山岳協会顧問を勤められておられ、挙げられた。また現在では新潟 今秋晴れの受賞となった。

黒部川「下の廊下」をゆく「2」

高橋 欣 弘（長岡ハイキングクラブ）

11日(月) 午前6時16分 出発 (5k 7時間)

起床後、食堂に行く和我々と3〜4人で。他のパーティーは登山者に指定された乗車時間（樺平駅10時30分発）に見合うよう午前4時半頃に雨のなか出発するが我々はキャンセル待ちのキップのため朝食後、ゆっくりと霧雨の中、阿曾原温泉を後にする。

キャンプ場脇を通り、今日一番の急登でしかも岩石と木の根・丸太梯子と悪路をジグザグに登り、脚はギブアップ寸前、登りきると水平道で大きく左へ曲がると折尾谷（おひなたん）出合、堰堤内を抜けてしばらくは黒部川本流を見ながら対岸の眺望がよく白馬岳・鍵方岳・唐松岳と続く稜線を見とれて

いると大太鼓の標識があり、



### 内蔵助谷出会より

下流には樺平の建物が見下ろせ、駅の構内放送が聞こえる。大へつりと道幅は極端に狭く(30~50cm)、丸太橋(直径が10cmの丸太4本組)の下は黒部川で水面より150m以上もあるし、恐怖心で行くも地獄、戻るのも地獄で足元を覗き見る? どんでもない、恐くて・十分に注意して無事に通過。道は大きく左に大曲りすると志合谷でトンネル内は水没? 長さは150m、内部は屈曲し真っ暗で狭く、高さは低くて頭部打撲、道には10cmほどの深さで水が流れて歩きにくい。抜けると目前に対岸の奥鐘山(おくかねやま)と大岸壁をなしている。樺平駅は見えるがまだ続く丸太橋・トンネルとへつりを行くと送電線と鉄塔が顔を出してくる。

脚はギブアップして悲鳴をあげて、踏ん張る力もなく、ふらつくが気合を入れて最後の丸太橋、転落事故の現場を慎重に渡り樹林帯を歩くと最後の鉄塔が・・・。樺平まであと1・6kの標識がある左側の下りのシジミ坂、木の根・梯子・岩石のガレ場・樹林帯に最後は工事中の柵越えと一気に駆け下ると樺平駅、全員で長かった山行に無事と感謝・感激の気持を込めてハイタッチ。黒部川「下の廊下」に向かって「ありがとう」と一礼する。予定時間より早く着き、改札口で乗車券のキャンセル待ち、予定より早めのキップがありラッキーだ。

樺平周辺の観光案内板は日本語、英語、中国語と韓国語で説明。国際色豊かで観光客も大勢でいつものことながら驚く。樺平駅からのトロッコ電車は普通車で窓枠はないが屋根はあるし快適で途中では色々のハブニングがあり、見えないものが見えるし、樺平に向かうツアーに向かつて、天気なのに雨だとアドバイスはするし? 4号車の乗客は大笑いでお腹が痛い。宇奈月駅でひと風呂浴びて楽しかった、

苦しかった、怖かった恐怖の山行きも宇奈月駅でお別れだ。長岡駅には19時36分に全員無事に着く。

◆「十字峡の転落事故について」  
阿曾原温泉の救助隊・登山者(目撃者)及び協力者と本人から聞く。  
Aさん、24歳 女性 単独 単独で初めて「下の廊下」に挑戦した山ガールが吊橋上からアングルを考案中に足を踏み外して、転落。目撃者によると転落死と思ひ黒部川を見ると川の中に浮いて泳いでいる。何回となく確認するが泳いでいる、生きている、不思議だ。河原に上がり、救助を要請しているがコースから河原まで約100m位のオーパーハングでザイルがなければ下降できないし、上がることも当然無理。続々と登山者が集まってくる。ザイル・ザイルと声がけすると4・5のグループから運よくザイルの持ち合わせがあり、お願いをして借り、全員の力で引き上げる事ができ、山ガールは全身ずぶ濡れ、カメラも何物も・・・自分の置かれた立場を理解し、目を真っ赤にして何回となく全員に感謝の気持ちとお礼で。阿曾原温泉では宿泊者全員で

山ガールの運の良さに感謝してカンバイはしたかな? 本人はまたも目から大粒の汗とウサギの目で真っ赤、とショックで我々も切なくなり、もらい泣きの登山者もいた。御両親から山行きは今後、御法度になるのでは・・・と心配する。

◆「今回の転落事故について」  
Bさん 56歳 男性 単独 樺平に向かう途中の最後の丸太橋で気の緩みと足を逆ハの字に歩く丸太橋を平行線に歩き、スリップしバランスを失い約100m滑落して死亡を確認。(阿曾原温泉 救助隊談)

◆「コースについて」  
今年10月7日までは通行止め(開通はしているが関電の許可がでない)。一部の登山者は、許可前に入山するが内蔵助谷出合でブロックとスノーブリッジで1時間半の間待つと9月22日未明の大崩落と白竜峡も大量の残雪で困難を極めるために引き返す登山者もある。10月10日現在、事故は滑落死1名・救助者1名(ヘリコプターで)と負傷者(頭部打撲・擦り傷・捻挫等)は多数発生している。阿曾原温泉小屋については10月未だ閉鎖の予定だ。

### 登山・ハイキング・クライミング テレマーク&山スキー



**パーマーク**  
長岡市西宮内2-97(長岡市役所裏通り)  
TEL 0258-(37)1200-FAX 0258-(33)1164  
●営業時間/AM10:30~PM8:00水曜日定休

<http://www.parrmark.co.jp>

### 海外・国内旅行、主催・手配



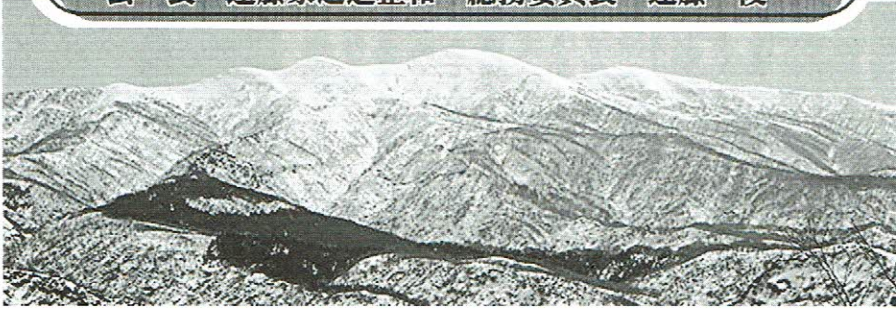
**ユニオン航空サービス**  
国土交通大臣登録旅行業第553号 JATA代理店 (社) 日本旅行業協会会員  
本社: 新潟県長岡市南町1丁目3番9号  
<http://www.uks.co.jp>

□長岡営業所 〒940-0084 長岡市南町1丁目3番9号 ☎ (0258)33-7123  
一級旅行業取扱主任者 森 真樹

□新潟営業所 〒950-0918 新潟県長岡市山王町1丁目2番11号 ☎ (025)246-2266  
一級旅行業取扱主任者 三島 豊

# 新潟県山岳協会 平成23年 新年会のお知らせ!

会長 遠藤家之進正和 総務委員長 遠藤 俊一



- ☆ 日 時 平成23年1月22日(土) 午後3:00より
- ☆ 場 所 ホテル ハイマート 上越市中央1-2-3 (JR直江津駅北口前)
- ☆ 会 費 6,000円
- ☆ 申込期限 平成23年1月14日(金)
- ☆ 詳細は案内送り先加盟団体へお問い合わせ下さい。
- ☆ 直接には総務委員長 遠藤俊一 〒950-2002 新潟市青山1-13-28  
E-mail Chf90410@syd.odn.ne.jp 新潟県山岳協会 総務委員会

## 編集ことうき

▲人が快適さを求める為の開發は生態系を破壊し、多くの種の絶滅を招いた。何度となく聞いたり議論されている里山や里地などが、定期的に人の手が入る事によって農業、林業など独特な環境が保たれている。水田や畑、用水路、ため池、草地、雑木林などの田園風景は、豊かな生物多様性を育んできたのだが、中山地の過疎化や高齢化などで農林業の形態などの変化とともに自然形態も大きく衰退している。

▲「生態系の多様性を守る」といった対象が広すぎるのだろうか、期待していた10月の名古屋で開催された第10回締約国会議(COP10)は「名古屋議定書」を採択して10月末閉会した。遺産資源の利益の配分をめぐる途上国と先進国の激しい対立が浮き彫りになった会議だったようだ。遺産資源の公平な配分を定めた「名古屋議定書」と2020年に向けた生物多様性保全目標の「愛知ターゲット」と途上国への資金援助など生き物

が生存できる環境を保全していくための基本ルールをつくった。とあるが、対応が自然破壊のスピードに間に合うのだろうか。

▲ご当地グルメの紹介がブームだ。例えば新潟の「タレカツ井」と長岡の「洋風カツ井」などだ。実は山の中の町と思われる尾根には私の子供の頃からちゃんと存在していた。タレカツ井とはよばなかったが、カツ井をオーダーすると井からはみだしたカツの上にチョココンと蓋が申しわけに乗っていた。蓋をとると、タレのしっかりからんだカツが3枚誇らしげに乗っていたものだ。タレは醤油がベースだがほのかにソースの香りもしていた。「洋風カツ井」はたしか「さらカツ井」とよんでいた。3階建ての大正時代の面影を残した半洋式の店構えだった店はすでにないが、洋食屋なのだがすぎ焼きや鍋物などもあったし、座敷や小座敷もあったからチョットしたデイトスポットだった。近くを通ると青春の少し甘く、ほろ苦い想いで出と、ほのかにソースの香りを思い出す。

会報・編集 浅野

## 登山・スキー・テニスの専門店

ヒトと地球のインターフェイス

**ICI 石井スポーツ**  
新潟店

新潟市中央区堀之内南1丁目16-52 TEL:(025)241-5134代  
営業時間/平日10:30am~8:00pm 休日10:30am~7:00pm

**JTB** Your Global Lifestyle Partner

70th  
ANNIVERSARY  
JTB

## JTB関東 法人営業新潟支店

新潟市中央区古町通6-976

TEL:025-224-2201 FAX:025-229-5775

<http://www.jtb.co.jp/shop/houjinniigata/>

※“旅”の最新情報、ご覧になれます。

E-mail:h\_mitani388@jtb.jp